



アスンシオン通信

シーズン2

日付: 2025 年 10月17日 no.36

発行者: 田邊紘起

Hola a todos ! Como están?

10月10日に大阪で、サッカー日本代表対パラグアイ代表の試合があり、テレビ中継されましたね。田幸小のみなさんはパラグアイのことをよく知っているので、「おっ！パラグアイだ！」と思ったのではないのでしょうか。そうだったら、とてもうれしいです。

さて今回は、アスンシオンの日常生活の中で、わたしが少し困ってしまった体験をまとめてみました。

【ドライブ編】

① 「ごめんなさい！」の合図がない？

買い物などで自家用車に乗ることがありますが、交通ルールは基本的に日本とよく似ています。しかし、車のハンドルは左側についていて、道路の右側を通行するようになっています。左側通行の日本とは逆ですね。最初は少し不安でしたが、慣れてしまえば日本と同じようにスムーズに運転することができます。ただ、日本で運転中にしていた「ある行動」が通じなくて困りました。それは「ごめんなさい！」の合図です。みなさんの家の人は運転中、まわりの車のドライバーに「ごめんなさい」という合図を送る時、どういう風に伝えていますか？ おそらく顔の前で両手を合わせたり、片手を挙げて敬礼するような動きをしたりすることが多いと思います。しかし、パラグアイには運転中に「ごめんなさい」を伝えるジェスチャーがありません。親指を上立てる「グーサイン」はあります。狭い道を通る時、対向車に迷惑をかけてしまって「ごめんなさい」と伝えたくても、それができずに申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。地元の人に聞いたら「自分の方が悪いと認めることになるので、自分から謝ったりし

ない。」と言われ、日本人の常識と違うのだなと思いました。プラグアイでは、運転中に他の車に迷惑をかけたなら「迷惑をかけてごめんなさい」ではなく、「待ってくれてありがとう」とグーサインをするそうです。

② ドライバーの姿が見えない！

日本では、車のフロントガラスと運転席、助手席横の窓ガラスは安全のために外からも中からもよく見える透明にしなければならないというきまりがあります。そのおかげで、ドライバーは外の様子がよく見え、すばやく危険を察知して交通事故を未然に防ぐことができます。また、周りにいる人や車からもドライバーが見えるので、お互いに目や手を使ったコミュニケーションをとりながら安全運転に心がけることができます。

プラグアイでは、窓ガラス全面（前も横も）に黒いフィルムが貼ってある車がたくさん走っています。そのため、道路を渡ろうと思って走ってくる車の運転席を見ても、ドライバーの姿が見えません。自分が運転している時も、対向車のドライバーの姿が見えないので、目や手で合図を送るコミュニケーションができずに困ることがありました。ただ、心やさしいプラグアイの人は、車の窓を開け、窓から手を出して合図してくれます。そんな時はこちらも窓を開け、窓から手を出してグーサインでお礼をします。

いちいち窓を開け閉めして合図するのは大変ですが、全面黒フィルムの車が多いのには理由があるようです。

まず「外が暑い」という理由です。真夏は気温が40度ほどになるパラグアイは、日差しが強く、黒フィルムをしていないと車内が危険なレベルまで高温になったり、シートや内装が日に焼けしてしまったりするそうです。それから「安全のため」という理由もあります。外から車内が見えると、窓ガラスを割って中のものが盗まれることがあるので見えないようにするそうです。こうしたいろいろな理由により、窓ガラスが全面真っ黒で、車内が全く見えない車がよく走っています。



窓ガラス全面に黒フィルムが貼られ、中が見えない車。あれ、ナンバープレートは？

【レストラン編】

① 水のサービスは当たり前じゃない！

みなさんは、レストランに行って席についた時、ウェ이터さんが水を持ってきてくれた経験がありませんか？実はこの水のサービス、世界的にはとてもめずらしいことのようにです。日本の水は質がよく、飲用にも適しているため、「おもてなし」として無料で水がもらえます。しかし、世界ではこれ



レストランで水を注文すると
ペットボトルの水がでてくる

が当たり前ではありません。パラグアイでは、水も他の飲み物と同じように注文して買わなければいけません。そのため、食べ物を注文する前に飲み物の注文を聞かれますが、うっかり「飲み物はいりません。」というと、何も飲み物がなく、ご飯の途中でのどが渴いてしまいます。当たり前のように自由に水が飲める日本は、とても恵まれていると思いました。

② チップをはらう習慣

日本のお店にはほとんどありませんが、こちらでは「チップ」という習慣があります。料理の代金やサービスのレベルに合わせて、ウェ이터さんにチップ（お金）を払います。お店で働く人

のサービスにお礼の気持ちを伝え、働いている人を支援するために始まった習慣らしいのですが、今ではヨーロッパからアメリカや中南米へと広がっています。パラグアイも同様に、レストランではチップをはらうのがマナーになっています。

だいたい代金の10%ほどを上乗せして支払うか、上乗せ分だけ別にウェイターさんに渡します。例えば代金3000円だったら、10%上乗せして3300円支払います。ウェイターさんは「Que a mable.Gracias（ケ アマブレ グラシラス）ご親切に、ありがとうございます。」と言って、笑顔で出口まで送ってくれます。

日本ではサービス料金が代金に含まれていることが多く、請求された金額だけレジで支払いますが、パラグアイでは請求額より少し多めに支払って、おつりを受け取らないこともあります。日本と違う習慣に慣れるまではドキドキしますが、違うのが普通と思えば、違いを見つけることが面白くなります。日本のお店で「おつりはいらないよ。」って言ったら、逆に不思議そうな顔をされるかもしれませんね。

タイトル写真について

パラグアイの伝統的な刺繍「ニャンドゥティ」の街として知られる「イタグア」の文化センターの様子です。とても目の細かい

レースの工芸品で、南米らしいカラフルな色やいろいろな形のものがあります。刺繍を扇子にアレンジした商品もあり、思わずうっとりと見とれてしまいました。

スペイン語・グアラニー語ひとこと講座

Vamos a jugar (バモス ア フガール) : 遊ぼうよ！

友達を遊びにさそう時にはvamos a jugar といいます。どこの国でも、友達といっしょに目を輝かせながら遊びに出かける子供たちの姿はとても明るく、強いエネルギーを感じますね。

次回について

次回は、日本のみんなも知っている、パラグアイの子供たちの遊びについて紹介します！

Chao chao ! Hasta la próxima vez!